

空調文人

2012年〈平成24年〉4月18日(水曜日)

【船橋】NPO法人アコンクリーニング協会（理事長＝西村直人氏、会員数38社）は6日、千葉県船橋市のセミナー「ウスークロス・ウェーブ船橋」で第18回総会とシンポジウムを開催した。同協会はエアコンのクリーニング効果に関する研究を継続する団体で、18年前に3液工法により廃液を無公害としたエアコンの洗浄方法を開発（特許3406038号）したエアコン丸洗い（社長＝西村直人氏、本社・千葉県船橋市）が母体。毎年の総会では、同工法を核としたビジネスモデルの実現・普及のための提案を行つており、近時はエアコンの汚れによる電気代のロスやカビの汚染

などを「見える化」し、顧客にメリットを与える最適な洗浄のタイミングを計測データにより推計して提示する「スマートウォッシングビジネス」を提唱し、同業者との差別化を図っている。

総会開催に先立ち西村理事長は「市場が（安売り）で低下していく中で、新しいものに取り組まなければ勝ち残ることはできない。このため新たなビジネスモデルをつくり、事業を進化発展させる報告会を年に1度開催している。今回も将来に向かって新しいものを生み出す会としたい」と挨拶した。

議事では平成23年度の本部活動として、会員企業の現地支援（作業支

援省工ネ勉強会の講演など、展示会への出展、白井工業団地協議会の工アコン洗浄によるCO₂削減調査事業など、活動と収支を報告。24年度の協会活動方針では、スマート・ウォッシングビジネスの推進と会員増強、新たなビジネスモデル特許出願によるブランド力の強化、出前研修会の実施(有機実習型訓練事業との組み合わせ)、会員受注業務の本部出張支援、協会ホームページの有効活用、会員登録の発表し



AC協会の総会会場風景

特許工法で差別化を

特許工法で差別化を
総会でビジネスモデル提案

シンポジウムでは、24年度活動方針で示したビジネスモデルについて本部から提案が行われた。ここでは、先ごろ発表した洗浄剤の新パッケージ（本紙3月14日号既報）を紹介。弱アルカリ性洗剤の安全性と併せ、同梱している酸性の洗浄剤を所定量使用することで廃液が中和される実演を行つた。この洗浄剤は協会会員が販売代理店となり、ハウスクリーニング業者などへ販売することができるようとしたもの。

3液工法（特第3406
038号）②省工不診断、
計測（特開2010-5
4181号）に③フィル
ター定期交換サービス④
ATP検査器によるカビ
汚染計測の2つを加えた
ビジネスモデルを提案。
①は17年前に特許を取
得した同協会のベースと
なる工法で、②は4年前
に出願、特許査定済みの
もの。今回の提案について
西村理事長は「③と④
の2つを特許化してプラ
ンド力を高めていきた
い」とし、特許出願のた

めの出資を会員企業に呼びかけた。引き続きパネルディスカッションが開かれ、出席会員の現状・シンポジウムで提案されたビジネスモデルについての意見が報告された。

なお、今回提案された「フィルター定期交換サービス」「ATP検査器によるカビ汚染計測」のビジネスモデル特許は、出資が当初の予定額に達したことからこのほど西村理事長と出資者の連名で特許を出願した。

- モデル①：廢液無公害
3液工法
- モデル②：省功診断
熱物力率比の計測
- モデル③：フィルター定期交換
サービス
- モデル④：ATP検査器による
レバゲーション